

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月5日

協議会名: 立科町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:立科町 運行系統名:西回り線①	立科町役場前～ 立科町役場前	利用者の増加を図るべく、積極的なPR活動(時刻表の全戸配布やHP、音声告知放送による周知)を行った。	A 計画どおり適切に事業実施された。	A 「利用者の増加」と、「収支率を15%以上とする」という目標に対して、利用者64人増・収支率24.7%という結果となり目標達成となった。	日中の便であり、権現の湯、スーパーマーケットの利用者が多く利用していることから、利用者は増加し収支率も改善した。今後も利用者の動向を注視していく。
事業者名:立科町 運行系統名:西回り線②	立科町役場前～ 立科町役場前	利用者の増加を図るべく、積極的なPR活動(時刻表の全戸配布やHP、音声告知放送による周知)を行った。	A 学校からの要請により、数回変更はあったが、それ以外は計画どおり適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と、「収支率を15%以上とする」という目標に対して、利用者217人減・収支率6.3%となった。	早朝の通学利用を想定している便であるため、年によって利用者数が異なり、利用の呼びかけによる効果も小さいことから、収支率の改善策を検討する。
事業者名:立科町 運行系統名:西回り線③	立科町役場前～ 立科町役場前	利用者の増加を図るべく、積極的なPR活動(時刻表の全戸配布やHP、音声告知放送による周知)を行った。	A 学校からの要請により、数回変更はあったが、それ以外は計画どおり適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と、「収支率を15%以上とする」という目標に対して、利用者285人増・収支率12.1%と目標に届かなかった。	朝の通院や運転免許を持たない通勤者の利用を想定している便であり、利用者が増えたものの、収支率が目標を下回ったことから、収支率の改善策を検討する。
事業者名:立科町 運行系統名:東・南回り線	権現の湯～ 立科町役場前	利用者の増加を図るべく、積極的なPR活動(時刻表の全戸配布やHP、音声告知放送による周知)を行った。	A 計画どおり適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と、「収支率を13%以上とする」という目標に対して、利用者551人増・収支率9.8%と目標に届かなかった。	利用者は増加したものの、収支率が目標を下回ったことから、収支率の改善策を検討する。
事業者名:立科町 運行系統名:シラカバ線	蓼科高校～ 立科町役場前	利用者の増加を図るべく、積極的なPR活動(時刻表の全戸配布やHP、音声告知放送による周知)を行った。	A 学校からの要請により、数回変更はあったが、それ以外は計画どおり適切に事業実施された。	B 「利用者の増加」と、「収支率を30%以上とする」という目標に対して、利用者125人減・収支率11.4%と目標に届かなかった。	通学での利用が主であるため、年によって利用者数が異なり、利用の呼びかけによる効果も小さいことから、収支率の改善策を検討する。